

Library Mate

フィンランドの図書館を訪ねて

短期大学 図書館学課程

教授 松尾 昇治



ヘルシンキ大学図書館エントランスホール

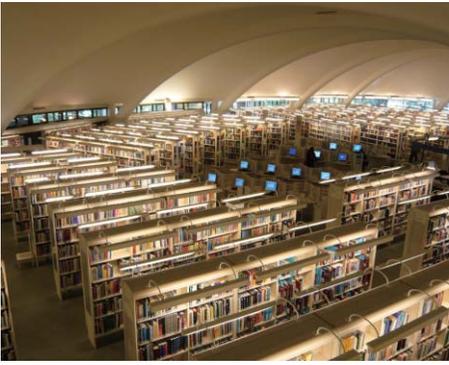
昨年フィンランドの図書館を訪ねるツアーに参加する機会がありましたので、この国の図書館事情の一端を報告します。

OECDの学習到達度調査（PISA）で学力世界一のフィンランドは、公共図書館の利用の高さでも世界一と言われています。日本より少し小さい国土に人口526万人、首都ヘルシンキ市の人口はわずか56万人なのですが、公共図書館数は、市町村立図書館が927館、広域図書館が19館、移動図書館は172台あり、

人口比でみる設置数は日本を大きく凌いでいます。

図書館制度も日本とは違っています。フィンランド図書館法は、図書館及び情報サービスを整備することは自治体の責務であることを明確にしていますし、国の政策も都市と田舎とでサービスに格差がないことを目標に掲げていて、国民に対してきめ細かい図書館サービスを展開することを求めています。

(次項に続く)



タンペレ市中央図書館

公共図書館は国からの手厚い援助を受け、「教育文化規定資金調達法」による補助金は公共図書館の総支出額の42%を占め、国民一人当たり46ユーロ（7,360円相当）になるそうです。（地方分権に対する考え方がしっかりしていて、国は法律違反を犯さない限り、地方自治体に干渉することはありません。）ヘルシンキ市中央図書館は、国内の公共図書館の中央図書館としての機能を持ち、補助金の配分等の任務も受け持っています。このような制度のもとで図書館活動が展開されているこの国では、国民一人当たりの貸出点数が年間20点前後（日本のおよそ4倍）もあり、国民の8割が公共図書館の利用者と聞きました。

図書館職員については、図書館法により最低3分の2は司書を配置しなければならないと定められているため、専門の教育を受けた有能な司書（女性が多い）が配置され、自信を持って仕事に専念している姿を訪問先の図書館で多く見かけました。

ICT立国でもあるフィンランドですから、公共図書館も技術化が進んでいます。「図書館自動化戦略」と銘打って、各図書館には複数の自動貸出機は当然のごとく設置され、「自動返却仕分機」もセットになって備わり、利用者は手馴れた様子で使っていました。

国の「図書館戦略」によって、ICTを利用した図書館ネットワークが築かれています。たとえば、ヘルシンキ市、エスポー市、カウニアイネン市とヴァンター市の図書館は「HelMet（ヘルメット）libraries」という広域利用のネットワークを構築しています。それぞれの市民は「ヘルメット」に登録することで、Web検索・予約が自宅のPCからでもでき、図書を40点まで28日間（AVなどは別）

借りることができます。知識・情報リテラシーにおいても、都市と田舎に住む人々の間に格差が生まれないように、図書館は田舎へ「インターネットバス」を運行し、各地でPC教室を開くなど、都市と田舎との格差解消に努めています。

音楽や芸術に対する人々の関心も高く、ヘルシンキ市にはICTと音楽部門に特化した「ライブラリー10(テン)」という図書館分館が、ヘルシンキ市中央郵便局の中にあります。AV資料4万点と幅広い音楽分野の楽譜コレクションを所蔵しています。ここは音楽スタジオを備えていて、楽器の貸出しも行っています。生演奏やそのレコーディング、さらにCDの制作までできるという至れり尽せりのサービスが受けられるので若者に人気の図書館だそうです。

日曜日にヘルシンキ大学図書館を訪ねました。入口付近にあるロッカールームに荷物を預ければ、旅行者でもフリーに資料を閲覧することができます。重厚な円柱が立ち並ぶエントランスホールには貴重書が壁面にズラリと並んでいました。カウンターには職員がおり、日曜日でもサービス体制が整っていました。ここも日本の図書館制度とは違うのですが、ヘルシンキ大学図書館は「国立図書館」の役割も兼ねていて、15歳以上であれば誰でも利用することができます。さらに、全国にある16の大学図書館も国民に開かれていて、公共図書館のように利用できるそうです。

図書館の建物はどこもすばらしく、資料は多文化資料やAV資料などを含め多彩で、司書がきちっと配置されています。このことが世界に誇れる図書館を築き上げた礎なのでしょうか。



エスポー市ラッペンヴァーラ図書館

貴族と高盛り飯

大学 食生活科学科

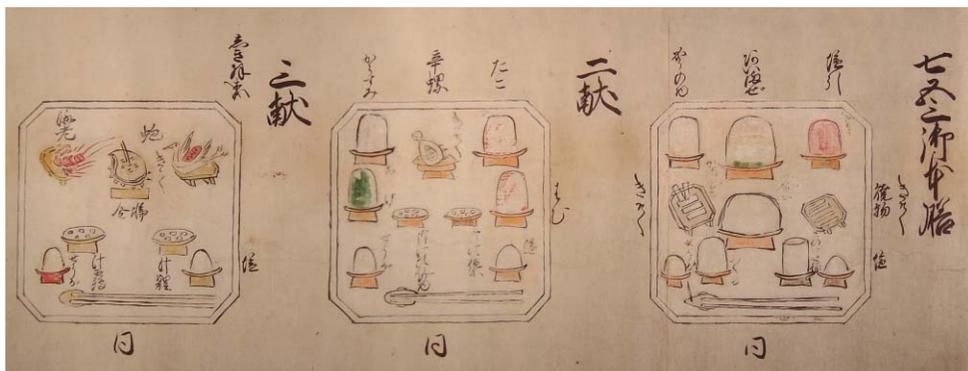
教授 大久保 洋子

奈良時代から平安時代は貴族文化が栄え、ごく一部の特権階級とはいえ、わが国独自の料理文化を築き、室町時代の日本料理成立の基となった。奈良時代から平安時代初期は唐の文化を積極的に移入した時期で饗応食のスタイルも例外ではなかった。朝鮮経由で移入したものは現在の朝鮮と日本の類似性を残している。この時代の饗応食には飯が椀に高く盛りられている、高盛り飯あるいは鼻つき飯といわれる盛り方をしている。すでに飯が食事の中心であり、接待するにあたってたくさんの飯を提供することは歓待をあらわすことにつながったにちがいない。この飯の食べ方であるが、箸と匙がセットでついているのでそれらを飯にさして食べたという。そして副食も高く盛り上げて供し、神仏への供物も同様に行う。このことは朝鮮半島や日本の寺院の供物に現在でも見ることができる。

日本料理は切ることが重要視されるといわれる。庖丁師という料理人も出現し、公家と武家には料理流派も栄えそれぞれの饗応料理の形式を踏襲し、今に続いている。平安時代までの料理は保存食の開発がかなり進んでおり、干物、塩漬け加工がなされ貢納物として牛乳の加工品である蘇も『延喜式』にあらわれている。牛乳も貴族に飲まれた事が判明している。貴族の儀式料理の汁物にはかつおの煎汁（いろり）が用いられ、すでに旨味を利用している。飯を高

盛りにし、食材は単品で調理され、調味は調味料を食卓に配置し、喫食者が調合して食べる形式であった。用いられた食材は動物性の食材が多く、根菜類、野菜類が少ない。そして身分により食卓の調味料すなわち塩・酢・酒・醬（ヒシオ）と菜の数に差を持たせている。

料理流派が出現するのは室町時代であるが、平安後期に庖丁使いを披露することがすでに行われており、日本料理が包丁すなわち切り方を重視する傾向が芽生えていた。そして料理の調味を料理人がつけるようになり、グレードの高い料理が供されるようになる。公家は四条流、武家は進士流や大草流などの料理人の流派が台頭し、中国の影響は影をひそめ、わが国独自の膳形式、汁と飯と香の物に副菜という献立の基本形に箸のみで食する形態が成立する。高盛り飯は凶のように饗応には踏襲されるが、その飯の量は少なくなる傾向にある。本膳料理の基礎が成立し、江戸時代には庶民の間にも浸透し、冠婚葬祭のハレの饗応食に用いられ、近年まで続いていた。茶の湯の懐石料理や宴席料理の会席料理は本膳形式を基として、時系列に改良して成立した。平安時代から飯と汁という基本形が食具や食べ方を変容させながら、わが国独自の日本料理を創出し、継承され、これだけ国際化が進みながらもやはり飯と汁からは離れられないようである。



(四條流祝儀献立図式) (常盤松文庫)

『一瞬の風になれ』を読んで



詩人 鈴木 幸子

(実践女子専門学校国文科卒)

『一瞬の風になれ』、何という良い題だろう。走るということに、これほど適切な言葉はない。走る、ただ走る、雑念の入る余地のない姿、陸上競技について、こんなに楽しく明るく、しかも詳しく書かれた本に初めて出会った。後味のさわやかなこと！

1 (イチニツイテ)、2 (ヨーイ)、3 (ドン) の3冊に引き込まれるように読み進むにつれ、目の前にそれぞれの人物が立ち現れ、一緒に話に加わって、中の一人になってゆく錯覚さえ起こす。父母、兄弟、友人たちとの心暖まる交流、お互いの気持ちを汲み、工夫し合い、そして自身を懸命に鍛える姿。少年たちの試合の前の緊張感など、微に入り細を穿った心理描写も見事。恋のめばえもすがすがしく、作者の少年たちに対する暖かな眼差しが全編にあふれている。

巻末に、作者自身は未経験者で、何年にもわたり陸上の詳細を学んだという。あらためて敬服。よくぞこれまでと、その想像力と表現力に感動している。

走る感覚、体が思い出した。いい加速からトップスピードに乗って直線をかっとなんでいく感覚、巻き起こす風と着地する地面の感触……自分の足で作るこのスピードの爽快感

この文に接した時、私がまだ小学生の頃、父と神宮球場に競技会を見に行っただけを思い出した。「この勝った人たちに、何もごほうびあげないの？」と父に聞いた。秋の陽が傾いて競技を終えた選手たちが目の前を次々引き上げていく。私たちの運動会だって1等から3等までエンピツやノートがもらえるのに。父は笑いながら、「賞品など何もないの、ごほうびは品物ではないのだよ。」と、自分の心と体を一生懸命鍛えて、精一杯その成果を発揮するのが喜びなのだと、やさしく話してくれ

た。作品の中の少年の姿に、あの時シュッシュと荒く息を吐きながら目の前を懸命に走っていた若い人たちの姿が思い浮かび重なる。

父は学生時代から走り、後に2年先輩だった金栗四三さんと箱根駅伝を企画、苦勞の末1920年にやっと実現。東京から箱根まで東海道をリレーでつなぐという発想はまるで駅伝のようなので、「東京箱根間関東大学駅伝競走」という名称にしたと聞いている。大学生が心身を鍛え、リレーによって友好を深められることを説いて大学間をまわったという。当時はなかなか理解してもらえず、第1回はやっと4校、第2回に7校になったという。

昔、フランスの教育者クーベルタン男爵が古代ギリシャのスポーツの祭典を復活させたのは、世界の青年の友情と理解を深め、世界平和に寄与しようとの趣旨だった。その精神に共感した父は、まったく利害ぬきに真正面から取り組んでいた。審判というのは神様の代理の仕事だから、絶対公平無私でなければいけないという話もしていた。三十数年間、毎年1回も欠けることなく審判長をつとめた父は、本当に若い人が力を尽くして走る姿を見るのが何よりも嬉しかったのだと思う。

父が生きていて、この本を読むことができたなら、どんなによかったことか。陸上のすばらしさと少年たちのひたむきな心に感動したのではないかと思う。



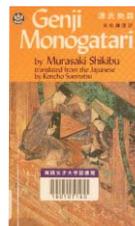
『一瞬の風になれ』 佐藤多佳子著

『源氏物語』の海外翻訳

平安時代の物語文学の頂点といわれる『源氏物語』は、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語など、23種類（2008年9月現在）の言語によって翻訳されています。ここでは、大学・短期大学図書館で所蔵している英語、フランス語訳のものをご紹介します。

Genji monogatari / Kenchio Suematsu (末松謙澄) 訳 1974

末松訳の『源氏物語』は、翻訳としては世界初のもので、初版は1882年、Trubner & Co. (ロンドン) より「桐壺」から「絵合」までを出版した。本書はCharles E. Tuttle Company (東京) から新版として刊行されたものである。末松は伊藤博文に重用され、1878年に英日本公使館一等書記生見習として渡英、1881年、ケンブリッジ大学に入学した。『源氏物語』の英訳はこの時期のものである。



The tale of Genji / Arthur Waley 訳 1925-1933

アーサー・ウェイリーの『源氏物語』の英訳“The tale of Genji”（全6冊）は、1925年から1933年にかけて、イギリスのアレン・エンド・アンウィン社から刊行された。英米の批評家に絶賛されたが、誤訳、削除、加筆が行われていたため、彼の創作という批評もあった。「鈴虫」はすべて省かれている。この英訳本によって、『源氏物語』は世界に知られるようになった。アーサー・ウェイリーの評伝として、宮本昭三郎著『源氏物語に魅せられた男—アーサー・ウェイリー伝』(新潮社 1993)がある。



The tale of Genji / Edward G. Seidensticker 訳 1976

エドワード・G・サイデンステッカーの『源氏物語』の英訳は、Alfred A. Knopf (ニューヨーク) から全2冊で刊行された。本文の挿絵に、山本春正編『絵入源氏物語』(1650)が使われている。玉上琢弥著『源氏物語評釈』、谷崎潤一郎・与謝野晶子などの現代語訳を参照している。伊井春樹編『世界文学としての源氏物語—サイデンステッカー氏に訊く』(笠間書院 2005)に、彼の翻訳についての考えなどが述べられている。



The tale of Genji / Royall Tyler 訳 2001

オーストラリアの日本文学研究者であるロイヤル・タイラーは、8年をかけて『源氏物語』全巻を英訳し、Viking (ニューヨーク) から刊行した。『新日本古典文学全集』(小学館)、『新潮日本古典集成』(新潮社)、『新日本古典文学大系』(岩波書店)を参照し、第1冊目に「桐壺」から「藤裏葉」、第2冊目に「若菜上」から「夢浮橋」を収めている。翻訳にあたっては原文に忠実に、あいまいさの解消に努めた。物語を理解するために、平安時代の貴族社会や和歌などについて解説し、各巻登場人物リストを付している。2001年に日米友好基金日本文学翻訳賞を、2007年に国際交流基金賞を受賞。



Le dit du Genji = Genji monogatari / René Sieffert 訳 2007

ルネ・シフェールのフランス語訳は、“Murasaki-shikibu”と題し、1977年に「桐壺」から「藤裏葉」までを刊行。1988年に54帖の翻訳が完成した。翻訳にあたって、シフェールは17世紀のフランスの貴族の言葉を参考にしている。本書は完訳の20周年を記念して、ディアンヌ・ドゥ・セリエ社 (パリ) から豪華本4巻として刊行したものである。2008年9月には普及版が刊行された。挿画として源氏絵520点、部分拡大図450点を収載。解説を執筆したエステル・レジェリー＝ポエールは、本学大学院美学美術史専攻課程で故宮次男教授の指導を受けた。



図書館ガイダンスに参加したことがありますか

皆さん、これまでに発表されてきた多くの論文を読んだことがありますか。授業はもちろんのこと、卒業に向けた研究や論文作成にあたり、多くの著名人の文献を読み、知識を深めていくことが大切です。そんな時どのように文献を手に入れ、勉強に役立てていくかを知っているのといないのでは大きな違いがあります。図書館では文献探しの方法や実際の入手方法などを交え、ゼミ単位等少人数でのガイダンスを随時行っています。今回は実際にガイダンスに参加した学生さんに話を聞いてみました。

図書館ガイダンスに参加して

生活科学部 食生活科学科 食物科学専攻

4年 大門 愛

私は大学入学時から授業の復習のため、参考資料や雑誌の閲覧など図書館を頻りに利用してきました。Web上での蔵書検索もキーワードをいれるだけの簡単なものしか操作したことがありませんでした。しかし、4年生になり卒業論文を書くにあたって数多くの論文を探し出す必要性が出てきました。そのような時に今回の図書館ガイダンスに参加しました。

ガイダンスの内容としては、論文検索方法の詳細なマニュアルをいただき、実際にパソコン画面を操作しながら説明をしていただきました。見慣れている図書館ホームページからの検索がスタートしましたが、大学図書館以外にも様々な外部サイトがあるということと、それぞれの内容の違いを初めて知りました。

データベースの情報源は国内はもとより、世界中から収集されています。キーワードや著者名、雑誌名などから検索しますが、論文の内容が要約された抄録がついている記事がほとんどであるため、本文を全て読まなくてもある程度のおさえることが可能だということを知りました。また、キーワード一つでも入力の方によって検索される文献が異なりました。このように、より効率良く必要な情報を収集するための検索方法を具体的に教えていただいたことで、作業時間の短縮と共に有用な論文を数多く閲覧することが出来るようになり、卒業論文を作成するために非常に役に立ちました。



ゼミ生と（前列中央が大門さん）



様々な論文が検索できます

図書館ガイダンスは少人数で行っていただいたため、操作方法を一つ一つ理解することが出来、すぐに実践することが出来ました。今回のガイダンスに参加したことによって、収集できる情報の幅が格段に広がったように思います。卒業論文の完成まで残りわずかですが、この恵まれた環境を存分に利用し、中身の濃い論文を仕上げられるよう努力したいと思います。

文献探索講習会を開催 — 日野市立図書館との相互協力の一環として —

日野市立図書館との相互協力連絡会主催の講習会「インターネットによる文献探索」を、9月24日に短期大学で開催しました。講師は本学の伊藤民雄図書館員が務め、日野市立図書館員5名が参加しました。

講習内容は、インターネットを利用して、漢字のパーツを組み合わせて難読漢字を調べたり、歌謡曲などの歌のフレーズから歌詞や曲名を調べたり、教科書に載った文学作品を検索したりと、和やかな講習会になりました。

終了後、短期大学図書館を見学して解散しました。

日野市立図書館とは、今後も資料の貸借、文献複写の利用などを中心として、文化事業の面でも連携を深めていきたいと思えます。



講習会の様子（左上は講師の伊藤図書館員）

日野市立図書館のホームページ：<https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>

大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

国文学研究資料館が立川に移転しました

国文学研究資料館は、国文学及び関連分野の専門調査研究機関です。国文学に関わる様々な課題に対応した基幹研究、研究プロジェクト、共同研究を行っています。国文学関係の図書、雑誌のほか、古典籍、歴史資料やマイクロフィルム資料の閲覧、複写サービスなどを提供する資料館です。『国文学論文目録データベース』（現在、大正元年から平成17年までの論文が検索可能）など数多くのデータベースを公開しています。国文学研究資料館は平成20年4月から立川に移転、開館しました。展示・講演会なども開催しています。興味のある方は、是非訪ねてみてはいかがでしょうか。



閲覧コーナー



閲覧室入口

所在地：立川市緑町（多摩都市モノレール高松駅下車）

国文学研究資料館のホームページ：<http://www.nijl.ac.jp/>

館員の横顔

10月から大学図書館で勤務することになりました、伊藤美紗子です。

学生時代は忙しいですが、一番勉強できるいい時期ですね。勉強というのは、自分が知りたいなあ、どうしてだろうなあ、という好奇心を満たすことだと思います。好奇心を満たすのに最適なのが図書館。本棚にはわくわくどきどきがいっぱいつまっています。

また、図書館には好奇心を満たす手助けをしてくれる案内人がいます。それが図書館で働いているスタッフです。本のありがたかわからない、自分の知りたいことをどうやって調べたらよいかかわからない、などあったら、気軽に図書館のスタッフに声をかけてくださいね。

みなさんの質問に答えられるよう、スタッフ一同、日々鍛錬をつんでいます！

❀❀❀いんふお-め-しょん❀❀❀

2008年12月～2009年3月

大学図書館

開館時間

通常：月～金 8：50～19：30
土 8：50～17：00
※日曜・祝日休館

冬休み特別貸出

期間：12/8(月)～12/26(金)
返却日：1/8(木)
対象：図書のみ 冊数無制限
※指定図書・雑誌は通常通り

冬休み中の開館

開館日：12/24(水)～12/26(金)
開館時間：9：00～16：00

試験期の貸出

1/5(月)～1/24(土) 3日間貸出
対象：大学生、短大生、科目等履修生

試験期の開館

1/5(月)～1/31(土)
月～金 8：50～19：30
土 8：50～17：00
※日曜・祝日休館

試験終了後(2/2～)の開館

開館時間：9：00～16：00
※日曜・祝日休館

春休み特別貸出

期間：1/26(月)～3/19(木)
返却日：4/10(金)[卒業予定者3/19(木)]
対象：図書のみ 冊数無制限
※指定図書・雑誌は通常通り

休館日

12/27(土)～1/4(日)は冬期休業のため
1/17(土)はセンター入試のため
1/23(金)、2/2(月)～2/4(水)は入試のため
2/26(木)～3/6(金)は蔵書点検のため
3/7(土)は入試のため
3/20(金)～4/2(木)は卒業式、新年度準備のため
※3/20(金)の大学卒業式当日は閉館していますが見学は可能

短期大学図書館

開館時間

通常：月～金 9：00～18：45
土 9：00～16：00
※日曜・祝日休館

冬休み特別貸出

期間：12/8(月)～12/22(月)
返却日：1/8(木)
対象：図書 冊数無制限
AV資料 6点
※指定図書・雑誌は通常通り

試験期の貸出

1/6(火)～1/21(水) 3日間貸出

試験期の開館

1/6(火)～1/26(月)
月～金 9：00～18：45
土 9：00～17：00

試験終了後(1/27～)の開館

1/27(火)～1/31(土)
火～金 9：00～17：45
土 9：00～16：00
2/2(月)～9：00～16：00
※日曜・祝日休館

春休み特別貸出

期間：1/22(木)～3/19(木)
返却日：4/10(金)[卒業予定者3/19(木)]
対象：図書 冊数無制限
AV資料 6点
※指定図書・雑誌は通常通り

休館日

12/24(水)～1/5(月)は冬期休業のため
1/17(土)はセンター入試のため
2/2(月)～2/7(土)は入試、書庫点検のため
3/7(土)は入試のため
3/20(金)～4/3(金)は新年度準備のため

学事日程の関係で変更になる可能性があります。詳細や変更は掲示等でお知らせします。

編集後記

今号はいかがでしたか。フィンランドの図書館の立派な様子に驚いた方も多いと思います。建造物をながめるだけでも充分楽しめると思いますので、海外旅行に行った時には各国の図書館にぜひ立ち寄ってみてください。

Library Mate 第41号 2008年12月

発行所 実践女子大学図書館
東京都日野市大坂上4-1-1
URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/>
実践女子短期大学図書館
東京都日野市神明1-13-1
URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/jcol/>
発行責任者 栗原 敦